

報 告 書

開催日時	平成27年5月11日（月）午後7時00分～8時30分		
開催場所	小友ふるさとセンター		
出席議員	挨拶 伊藤 明彦議長		
	司会進行	大坪 涼子	
	報告者	藤倉 泰治	
	記録者	鶴浦 昌也	
	議員	大坂 俊	(欠席:佐竹 強)
参加人数	市民13人、市職員1人、岩手日報記者1人、東海新報記者1人		
主な要望 ・提言等	<p>1. 震災復興のため、例えば農家のトラクターに十分の八の補助がでたという話を聞いてビックリしている。私も被災しながらも商売を再開したが、市から50万円の補助をもらった。その際、設備投資に一千万円借金したが、市から「設備投資にかかった道具類の金額を報告しろ」と言われて報告したら、毎月8万円ほどの固定資産税を納めなければならなくなった。これで活力あるまちづくりができるのか。今後、消費税も上がるので心配。</p> <p>2. 高田町の火葬場周辺で「高台移転のための工事が進められている」と思ったら、体育館とプール建設のための工事だということ。今、本当に必要なのかと疑問に思う。仮設住宅に住んでいる人たちは、住宅再建を一番に望んでいる。公共施設建設よりも住宅再建を優先すべき。アパート経営していた人たちに対する補助もない。県内陸部の自治体では被災者に住宅の施策を展開しており、それに対抗できるのか。</p> <p>3. 小友小学校の避難路整備に八千万円の予算がついたというが、それよりも、何年かお金を貯めて新しい校舎を建ててほしい。また、台風シーズンになれば沿岸地域から避難しなければならないが、コミセンも浸水区域にあり避難所にならない。「公営住宅の空き室に逃げろ」と言われているが、その際のトイレと水をどうするのか。ハザードマップにも出ていないが、井戸水が湧くようなところを書き込むことも必要と思う。</p> <p>4. コミセンとして、一番の問題は小学校。被災している小学校に子どもを通わせているのはどうかと思う。避難するとなれば、仁田山方面にはモビリアがある。しかし、小学校の近くに子どもたちが避難できる場所がない。避難させるにしても道路は車で混雑し、安全に子どもを避難させることができるのか疑問。</p>		

5. 地域の問題として小友郵便局をどうするかということがある。見直しはどうなっているのか。
6. 市の予算は震災前に比べ10倍になったというが、復興が終わった時に若い人が残っているのか。若者が定住するような施策を展開すべき。目先のことばかりを見ないで、人がいなくなるような定住策を進めるべき。
7. 子どもたちの命をどのように思っているのか。小友小学校の統合についても噂に出始めているようだが、子どもたちを危険な場所に置き、先生に任せっきりでいいのか。
8. 小学校の問題について、これまで何度も議会報告会で要望してきたにもかかわらず解決しないというのはどういうことか。国からお金が出ないから、いくら騒いでも限界ということか。この事実を住民はどのようにとらえればいいのか。子どもたちの命がかかっていると思っている。
9. 小学校の問題について、ダメならダメと言ってくれればよいと思う。最近市内でも1年間で100人ほどしか生まれてない。将来的に市内に小学校も中学校も1校ずつになるのではないか。このままズルズルと引きずるのは決して良くない。
10. スクールバスを出して、高田に通わせたらどうか。
11. 北海道で400年に一度襲う津波がこれまで何度も発生しているらしいが、前回の津波からすでに400年が過ぎているという。その津波は気仙沼で6メートルに達し、いつ起きてもおかしくない状況にあるようだ。南海トラフなどの大地震による災害も心配。そのような心配に手を打っておかなければならないのではないか。
12. 若い人の人口流出についてどのように考えているのか。
13. 震災前、高田小学校は毎年100人ぐらいの入学児童があったが、今では30人ほどと聞く。親の若い世代がいなくなったということでもある。高校新卒者も見当たらなくなり、大卒者が帰っているようでもない。例えば奨学金制度でUターン者には奨学金を返さなくてもよくすることができないか。
14. 子どもたちが安全に、安心して暮らせるように予算を使うのは当たり前。同時に若い人たちが定住し、子どもを増やしていけるような施策が大切。
15. 市議会で特別委員会を設け、人口増加に向けた全国にない本市独自の施策を考えてほしい。例えば、雪沢や玉山の金山を掘って人集めするなど、思い切ったことをすることが必要。
16. 新卒者が就職できるような環境を整備してほしい。若い人がどのような仕事を望んでいるかニーズを把握すべき。介護職が人気がないの

は賃金が安いからだと思う。

17. 人を集めるには交通手段を整備することが大切。仙台港からホバークラフトで松原に乗り入れできるようにすればいい。そのような発想が必要で、蛮勇を振るってほしい。

18. I L C が誘致できれば多くの人がある。ただ指をくわえているだけではだめで、これから対応を考えておくべき。

19. 漁業の生産者が減っている。個々には復旧しているが、若い人を集めないと魚も食べられなくなる。

20. カキやワカメも農業のように共同でできないか。個人だと細々となっていくなら考えていくべき。ワカメでも、収穫する人と芯抜きする人を分けるなど、共同作業が必要。

21. 只出地区など、共同でやっているところもある。しかし、ワカメの芯抜きなど、従事者が高齢化して少なくなった。そのため芯を付けたまま出荷せざるを得なくなっている。カキも同様で、殻つきのまま出荷し商品価値を落としている。

22. 一本松を見に多くの人がある。そのような人に新鮮なカキなどを食べてもらうようなことも必要。

23. 以前の道の駅で市外の人が商売をしていた。今後、そのようなことがないようにお願いしたい。

24. 昭和 50 年代、只出地区で 56 人がワカメ養殖していたが、現在は 7 人にまで減少した。今後、どのようにして人数を増やしていくかが課題。

25. 以前、ワカメの芯やメカブを捨てていた。それを商品化して儲けた人がいる。漁業者も、そのようなことをひとつの産業として考えていくべきだった。

26. 広田町につながるアップルロードがどの程度かさ上げされるのか。大震災の時に陸橋を津波が越えたが大丈夫か。

27. 小友小学校の移転の問題がなかなか進まないようだが、市議会に請願を出すような動きはないか。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 様

平成 27 年 6 月 8 日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第 10 条第 1 項の規定により提出します。

平成 27 年議会報告会 2 班

班 長 佐 竹 強 ㊞